

周散氏銅盤銘舊拓本

圖版③



圖版④

文辭古質未有闡鉛空金中難曰之處于
客秦浦時隣邑錢括曾致其女陪隨者境界
字「其界」甚表道之極也。首以有流往昔道
下有二者指畫易之。彼一此非重文也。尚為長道
字上處林木柯枝委委特而立之。與表裏宮廁對
即駐字畔即華字割即廣也。名詩所謂宿宿唐
心東是石鼓作黃壤矣色此之內無體字而鼓
竹江釋作鑑莫即耳。方伯徐揚漢文皆字為高所謂
鼙昂者像鼓宜生高激食采之地為編民所傳占商
聲清虧豐業而鑄高昂在濱水左在軍社之間涉
水深固阻邊營麻以循其道也。

孟康任弟零默客中案頭無書可翻僅就記憶
著書已時乙卯九月。嘉慶頃時年半有二

圖版⑤

散氏盤亦稱「史人盤」蓋失人載載散氏
我原考形以省及井邑。三處儀之因物
詳細雖多且營於於之。又載之。彝器所補
出約創之文凡三百五十九字。通稱散氏
與秦山法篆。篆渾厚為西周晚約古文
經器。篆形於董先生。程名地名。并程
村割捨制讀為「散」。散空為南人名
与秦山大同。而程如因
伊尹游生空自日午。攜所荷空石名拓
秦系港及澳門居楚漢。津拓石移
散氏盤如上甲子。庚午。馬周接

「落ち穂拾い記」⑩

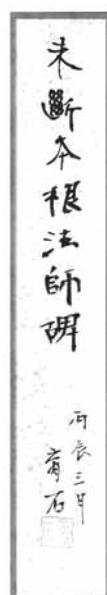
岡村商石旧藏『呉昌碩・鄒安等跋散氏盤拓本』

図版②

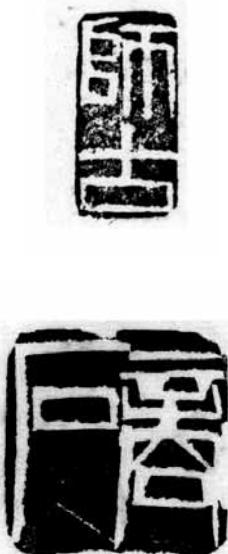
商石翁の室号
(齊白石筆)



商石翁の題簽
(齊白石筆)

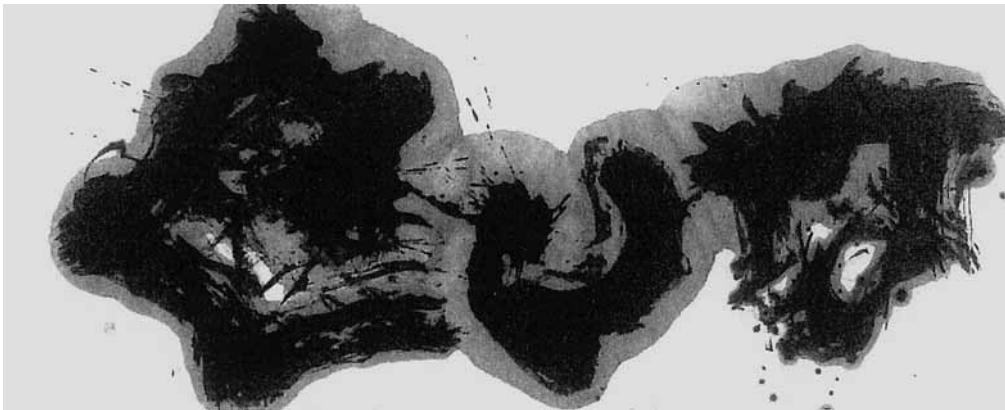


商石翁の自用印 (齊白石刻)



先の『宋拓神龍本蘭亭序』を京都で入手後、そのまま帰らずに寄り道をした。その頃関西に行ったときは、ほぼ必ず大阪の岡村商石(1910~1991、本名は蓉一郎、室号は師古齋、戦前から漢魏六朝の碑刻拓本を収集、多くの善本を收藏され昭和49年に「師古齋コレクション」として大阪市立美術館に一括譲渡された)氏を訪ね、金石碑刻拓本などに関することの教示を受けていた(図版①)。この時も京都で入手したばかりの『宋拓神龍本蘭亭序』を抱えてそのまま出向いた。岡村商石翁の拓本に対する視点は、漢魏の碑刻拓本にあり、蘭亭序などの「法帖拓本」は好みでなく、手を出されていなかつた。商石翁の反応を気にしながら、入手したばかりの蘭亭序を目の前に差し出した。「丁寧に帖を繰りながら、拓調、鑑藏印、羅振玉、内藤湖南の跋文に目を通し、最後に「この種の帖は、我々の手にできないものでした」「大いに眼福を得ました」「いいものを見せていただきありがとうございました」と。この言葉には驚いた。「いいものを買われましたね」「戦前では、とても高価なもので」などの言葉が続いた。しばらくして引き上げる際に、「今日は、これをお持ち帰りください」と言われて、一本の軸を差し出された。前に見せていただいたことがある『呉昌碩・鄒安等跋散氏盤拓本』である(図版②)。当時の私にとっては、入手した蘭亭序以上の憧れの拓本であった。「大盂鼎」「毛公鼎」「大克鼎」と並ぶ中国四大青銅器の一であり、原器は台湾の故宫博物院の重宝であり、铭文は金文拓本の第一に挙げられる(図版③)。更に近代の書画篆刻の大才・呉昌碩の二百余字に及ぶ見事な行書の跋文(図版④)が付せられた旧拓散氏盤の名品である。先に「幻と化した黄庭經」から「蘭亭序」に行き当たり、この京都からの帰りの寄り道で、思いもかけない素晴らしい金文拓本に恵まれ、一度に二件の優れた拓本を得た。不思議な巡り合わせである。その後、軸装の一部が破損していたので、表の状態をそのままに重装した。一九八四年の夏に香港と澳門で、「歴代金石名拓展覧」を開催した折に出品し展覧後、協力を得た香港在住の篆刻家であり、古文字学者である馬国權(1931~2002、字は達堂)先生に、呉昌碩の跋文の左横の余白に見事な跋文(図版⑤)を書いていただいた。伊藤滋(書齋名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2020)



第70回毎日書道展覧会員賞受賞 「射」による

柳 橋 香 仙 書

書と私

私が書道を始めた頃は、臨書が中心でした。初めて「蘭亭叙」を取り組み、全臨したのが思い出されます。

展覧会では、墨をとろとろになるまで磨り、瓶にため濃墨で書きました。書く時には、ニカラを湯煎にし、墨と混ぜ大筆で書き始めましたが、思うようには筆を操れず時に両手で表現しました。真っ黒な作品で、冬はストーブをつけていても乾かず、何日もそのままにしていました。

書道芸術院展に初めて出品し、東京都美術館の夥しい数の作品群に圧倒させられました。その後、淡墨作品を書き始め、墨と紙、筆で表現方法が変わり、季節、天候により様々な変化が

現れます。淡墨の奥深さを感じながら作品制作に励んでおります。古墨・青墨等を宿墨して、画仙紙・洋紙・鳥の子などを使い、滲みや墨色・変化に魅力を感じています。



柳 橋 香 仙

私が書道を始めた頃は、臨書が中心でした。初めて「蘭亭叙」を取り組み、全臨したのが思い出されます。

展覧会では、墨をとろとろになるまで磨り、瓶にため濃墨で書きました。書く時には、ニカラを湯煎にし、墨と混ぜ大筆で書き始めましたが、思うようには筆を操れず時に両手で表現しました。真っ黒な作品で、冬はストーブをつけていても乾かず、何日もそのままにしていました。

書道芸術院展に初めて出品し、東京都美術館の夥しい数の作品群に圧倒させられました。その後、淡墨作品を書き始め、墨と紙、筆で表現方法が変わり、季節、天候により様々な変化が

現れます。淡墨の奥深さを感じながら作品制作に励んでおります。古墨・青墨等を宿墨して、画仙紙・洋紙・鳥の子などを使い、滲みや墨色・変化に魅力を感じています。

勤めていた幼稚園で習字（保育中）を始めた子が、大人になった今でも数人が稽古に通っています。現在では、書道芸術院展・毎日書道展で「前衛書部」に出品し、入選・入賞させていただけ嬉しい限りです。

高校時代から御指導をいただいていた板垣洞仙先生をはじめ諸先輩・書友の皆様のお蔭で書道を続けることができ、感謝でいっぱいです。

これからも微力ではございますが、少しでも書道の楽しさ、魅力を地元から発信していきたいと思っております。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

書道芸術院秋季展無事開催へ

前号でもお知らせしたが、書道芸術院秋季展は予定通り開催することになった。審査会員候補公募作品の審査結果は前号速報の通り決定した。

・会期 10月6日～11日

・会場 セントラルミュージアム銀座

アートサロン毎日（17人展）

会場当番などは出席できる方にお願いし、セントラル会場では受付業者2名を配置して対応する。消毒、感染予防などに極力配慮して行う。

表彰式、作品研究会、祝賀懇親会などは全て中止とする。作品研究会に対応するため、秋季菊花賞への作品評を選考委員代表に依頼し、別刷りして配布する。

アートサロン毎日（現代詩文17人展）

最終日11日に予定していた外部講師による作品研究会も中止せざるを得ないため、外部講師（船本芳雲・永守蒼穹両先生）に17人展出品全作品についてコメントをご依頼した。ほかに院担当理事（辻元大雲・小竹石雲・坂本素雪）によるコメントも依頼し、別刷りして配布する。これは展覧会閉幕後に院審査会員（公募出品審査会員候補含む）へ作品集送付の折に同送する予定。

また「書道芸術」11月号（秋季展特集）にて要旨を掲載する予定。

院創立記念日講演会 中止へ

恒例の本院創立記念日（11月23日）講演会について、開催する方向で準備を進めてきたが、新型コロナウイルスの蔓延の影響を受け、現状では開催することは困難と判断し、今年度は中止することとなつた。

講師にご依頼済みの台東区立書道博物館の鍋島稻子先生には事情をお伝えし、来年度に再度お願いすることとして、ご了解をいただいた。

同日開催予定の定例理事会は書面表決として行うことも決定した。

第74回書道芸術院展も開催へ

既に第74回展募集要項は皆さんのもとに発送済みだが、今後どのような状況になるか不安で予測もつきがたいところである。基本的に展覧会開催の方々で諸準備を進めていることをご理解いただきご協力を賜りたい。

現在の諸準備及び対応策

・作業中は全員マスク着用の上、院事務局より配布のフェイスシールドをつけて作業に当たる。入退室の際はアルコール消毒をこまめに行う。

・一般公募、無鑑査の搬入、作品整理によるコメントも依頼し、別刷りして配布する。これは展覧会閉幕後に院審査会員（公募出品審査会員候補含む）へ作品集送付の折に同送する予定。

1日延長して行う。

・一般公募、無鑑査鑑別審査
12月12・13日 当番審査員、審査事務委員で地方の方には大変なご苦労とご負担をおかけすることになるが、事情により欠席もやむを得ないため、出席された当番審査員、審査事務委員で慎重にまた公平に審査を行つていただこととする。事情により運営委員長・実行委員長が各部よりの相談に応ずることとする。

・表彰式 2月7日 帝国ホテル富士の間にて、授与対象を絞つて行う。

一般展は春華賞、大賞・準大賞・白雪紅梅賞、院賞・毎日新聞社賞・特選、準特選までとする。

・祝賀懇親会は中止する。

・会場当番 受付業者中心に出席できることにする。

・会場当番 受付業者中心に出席できる方に依頼する。

全国学生書道展

・作品搬入、整理 10月26日搬入、29日から31日作品整理（1日増やして対応）。

・A賞選考 準備11月4日、選考11月5日馬喰町奉仕会館にて行う。

・中央審査は11月6～9日の4日間とし、従来より1日増やして対応する。

・ワークショップ 2月6日(土)企画委員中心に学生展会場にて、密にならないよう配慮して行う予定。席上揮毫会は中止する。

・授賞式 2月7日帝国ホテルにて、団体賞（全国準優勝以上）、個人賞（A賞のみ）授与。付き添いなどは若干制限して行う。

・記者会見 2月4日陳列日午後3時ころより予定通り行う。人数が少ないといため密にはならない予定。

・作品研究会 昨年までは3回実施したが、密になることが予想されるたが、密になることは見合わせる。

・秋季企画「現代詩文17人展その後」のテーマによる研究会は参加者

毎日展企画「書の時間」紙上公募展 500余点応募 10／16発表

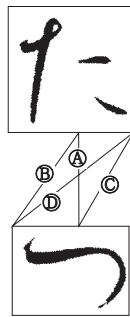
「書の時間」企画第2弾、紙上公募展は500余点の応募で盛況。10月16日(金)の毎日新聞紙上にて入選作29点が掲載発表される。乞ご期待。

かな基礎基本講座(5)

下谷洋子

連綿(1) 二字以上文字を続けることを「連綿」と呼ぶ

*連綿の基本的な形(文字の組合せコース)



ⒶⒶⒶは、上の字の終筆と次の字の始筆が近いので連綿しやすい
ⒷⒷⒷは距離が遠いので、工夫が必要



・で息つきし、伸びやかに「じ」の終わりまで書く



・終筆と始筆が同一線上にある時は、反動をとることもある



前の字から文字の区切れをつけず
・で強く筆を当てて突き返す

一字目の終筆から
ゆるやかに二字目に入る



この組合せは二字目がやや右に寄ることが多い → 連綿線が短くすっきり

連綿するには一番遠いコースなので
◎連綿する時は、◎のように次の字を

右寄りにする

◎連綿しやすい変体がなに換える



現代詩文書基礎基本講座(5)

小竹石雲

【賀蘭汗造像記】北魏(五〇二)年

特徴

仏教の影響を受けた時代で、龍門の石窟に多数の仏像と由来記が刻された。詳しくは「廣川王賀蘭汗造像記」という。二十品の一品で、廣川王の祖母の太妃侯が弥勒像を造り冥福を祈った願文である。

・野性味豊かで、剛健、たくましく霸氣に満ちている。方筆の特徴がよく出ている。

一品で、廣川王の祖母の太妃侯が弥勒像を造り冥福を祈った願文である。

①写実的臨書

・原帖

・筆先の力を紙背に蓄する気持ちは多くした。



①写実的臨書



②発展的臨書



・原帖の力強さをもつと前面に出すよう、潤渴と線の太細の変化をつけてみた。
・文字内の白を少なく黒々として迫力を強調。
・「覺」の「見」の部分に素朴なあどけなさを強調してみた。

令和2年度 新審査会員作品

阿部 緑玲（現）・色川 朴慧（前）・薄田 春緑（運）・梅山 久子（前）

阿部 緑玲
(宮城)

「墨と遊ぶ」



この度は、審査会員にご推挙していただき感謝申し上げます。浜田堂光先生はじめ翠柳書院の先生方にご指導いただいてきました。近頃は尾形澄神先生の薦めもあり淡墨に挑戦しております。墨色や濃淡等を工夫しながら、作品制作を楽しんでいきたいと思います。

(緑玲)

色川 朴慧
(宮城)

「我」



この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございます。お世話になっています先生に感謝申し上げます。継続してやってきた事を更に研鑽し、少しでも自己の中で感じたもの「喜怒哀樂」を表現できるよう学んでいきたい。

(朴慧)

梅山 久子
(群馬)

「先」



薄田 春緑
(千葉)

「猶在半途」



作品は「猶道の半ばにあり」の意です。
深く險しい書の道…どうにか継続できたのは加瀬澄春先生の細やかなご指導と、先輩や書友の励ましのお陰と感謝申し上げます。まだまだ遠い道程私なりに精進して参りました

(春緑)



この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございました。真下京子先生のご指導のもと高真会の会員の皆さんと長年にわたり共に歩んで来られた事に感謝いたします。
今後も他のジャンルの芸術にも触れ、時代を読み込み、自分らしい作品表現をめざして行きたいと思います。

(久子)

令和2年度 新審査会員作品

大森 龍泉（現）・春日 明藤（漢）・斎藤 祥紅（現）・佐藤 光耀（現）



大森 龍泉
(大阪)

「冬銀河」



この度は審査会員にご推挙
頂きありがとうございました。
書に対しても心が折れかけた
時、砂本杏花先生や山崎掃雪
先生、関西書道協会の諸先輩
方から手を差し伸べて頂きました。
書を学ぶ環境の中で自身の成長ができる機会をいた
だき感謝しています。これからも精進していきたいと思
います。

(龍泉)



斎藤 祥紅
(岩手)

「東北の秋」(高村光太郎詩より)

この度、審査会員に御推挙頂き、厚く御礼申し上げます。
今は亡き皆川祥雲先生に学び、宮城野書人会の先生方に感謝申し上げます。
今後、日々精進してまいります。改めて感謝を捧げます。

(祥紅)



佐藤 光耀
(宮城)

「三橋鷹女句」

この度は審査会員にご推挙
いただきありがとうございます。
浜田堂光先生はじめ諸
先生方に感謝申し上げます。
この句の「がうがう」とい
う古語表現に心を惹かれ取り
組みました。言葉の持つ表情
を大切にしながら、一層古典
臨書に力を入れ精進していく
たいと思います。

(光耀)



春日 明藤
(長野)

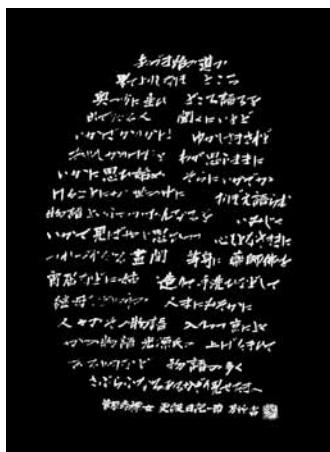
「歳月待不人」

この度は審査会員にご推挙
頂き有難う御座いました。
小浜梅窓先生・大明先生と
親子二代にわたり温かいご指
導を頂いてまいりました。牛
歩の書道人生ですが、挫けず
に続けて、今日を迎えました。
座右の銘「歳月人を待たず」
を書いてみました。皆様方の
ご指導をお願い申し上げます。

(明藤)

令和2年度 新審査会員作品

瀬川 華泉（現）・谷田 昭翠（漢）・土橋 芳艸（現）・戸村 博舟（現）



土橋
芳艸
(千葉)



瀬川
華泉
(兵庫)

「福永眞由美詩」

心に響いてくる詩や詞を表現する事を常に願い作品としてきました。長年ご指導頂いた砂本杏花先生の一周年忌を迎えた七月、この作品を完成。どう評価して下さるか心もとない乍ら、筆を持てる幸せを感じています。ことばの持つ力を筆に託しこれからも心を込めて作品とし、報恩と信じ精進をと誓いました。(筆承)

「更級日記の一節」

飯高和子先生より令和のはじめ「芳艸」の授号に感謝します。古写経の秘めた勁さに感動し、和の伝統の紺紙金泥細楷による表現する楽しさを知りました。この度のご推挙、先生方のご指導のお陰と感謝申し上げ、心新たに精進いたします。門出から千年の更級日記を金銀泥で書きました。

(芳艸)



戸村
博舟
(千葉)

「花びら」

この度は審査会員にご推挙頂き有難うございました。ご指導頂きました種谷萬城先生はじめ諸先生方に感謝申し上げます。今後もより一層好きな書と向き合って精進してまいります。今回は書を学ぶきっかけをくれた亡き母の歌集から一首書きました。

(博舟)



谷田
昭翠
(鳥取)

「受福無疆」

この度は審査会員にご推挙頂き有難うございました。

岩垣翠城先生、水谷鴨村先生、名越蒼竹先生に御指導を頂きました。多くの方々のご厚情に支えられてここまでござられた事に深く感謝を申し上げます。これからも、書に向かえる幸せに感謝しながら、一層精進して参りたいと思います。

(昭翠)

石鼓文

戦国（秦）①

〈解説〉石鼓文は現存最古の石刻文字である。高さ約60cmほどの太鼓に似た石（石鼓）に、狩獵に関する四言詩が刻されている。石鼓の製作年代は諸説あるが、戦国時代の秦とされている。全10個は初唐7世紀に陝西省鳳翔の陳倉の田野から発見され、現在は北京の故宮博物院に収蔵されている。発見当初から損傷が甚だしく、元来70字以上

あつたはずの文字は、今は22字を遺すのみである。石鼓よりも古い周代の金文から、始皇帝の時代に統一された篆書「小篆」に移る過渡的な存在で「大篆」と呼ばれる。一字の寸法は4~5cm、文字は一定の大きさに整然と配置されている。ゆつたりとした筆使いと丸みをおびた線、均整の取れたりとした空間分割が美しい。

(編集部)



(掲載図版・70%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみ也可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

じゅうごばんうたあわせ

1

特別研究部臨書課題
かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付也可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

(掲載図版・70%に縮小)

ま未あ安り幸い以
ち知り梨に耳ま未
て天阿同な奈己
つ川け竹が可武
留蜜の能と登素
か可つ川き幾性
な那き幾乃比せ
を遠しばせ
か可

〔解説〕「十五番歌合」は、藤原公任（972—1041）が、紀貫之や凡河内躬恒、柿本人麻呂、山部赤人など各時代を代表する歌仙三十人の歌一首ずつを選び、左右に分けて十五番の歌合わせの形式に番えた季歌撰である。「十五番」の番は「ばん」と読むが、二つ一組の「つがい」を意味する。撰者藤原公任の筆と伝えられてきたが、近年の研究では、筆者は藤原行成（972—1027）の孫にあたる藤原伊房（1030—1096）とされている。その書風は、平安朝の典雅優雅な仮名とは異なり、草仮名を主体にした大ぶりで雄渾な筆致が特徴である。中国から伝わった色とりどりの唐紙および蝶篋を用いた華麗な巻物で、八首分の零本（一部分のみが残つたもの）と断簡が六首分残っている。

※古筆は原寸（以上も可）で臨摹します。
しょつ。

※落款を必ず入れる。
○○臨(押印のみも可)

9

辻元大雲

金菊凌霜
(きんきくりょうじょう)

(蘇彥)

今月から担当します。行草書をベースに参考例を書いてみました。

今回は秋の風情を詠んだ四字句を、温和な雰囲気の行書で揮毫しました。黄菊が霜を凌いで咲いているの意です。

筆は羊毫中鋒筆を使用。厚みのある線で丸味と大らかさを感じてもらえればと思います。

上級の課題は書体自由で、色々な表現を楽しめます。書体・書風の違い、用具用材によつても表情は様々に変わります。
固定的にならず、色々挑戦してみてください。

金菊凌霜 よみ（金菊霜を凌ぐ）

書体＝自由



習い方解説 (一)

名越蒼竹

冰壺秋月
(冰壺秋月)

(劉因)

心の極めて清く、明らかなこと。



書体＝楷書

楷書は「まかしのきかない書体」です。結体の良し悪しは一般人にもすぐ分かりますし、部分の失敗は全体の破綻に直結してしまうからです。従って初心者には取っ付きやすい反面、上級者には完成度を上げるのに苦労する書体と言えるでしょう。作品化するには遊びの要素を多少取り入れる必要があるかもしませんが、学ぶ段階では厳密な構築性と線の張りを目指すべきだと思います。6回シリーズの1回目は特定の古典を意識することなく、初唐風ということだけ決めて書いてみました。

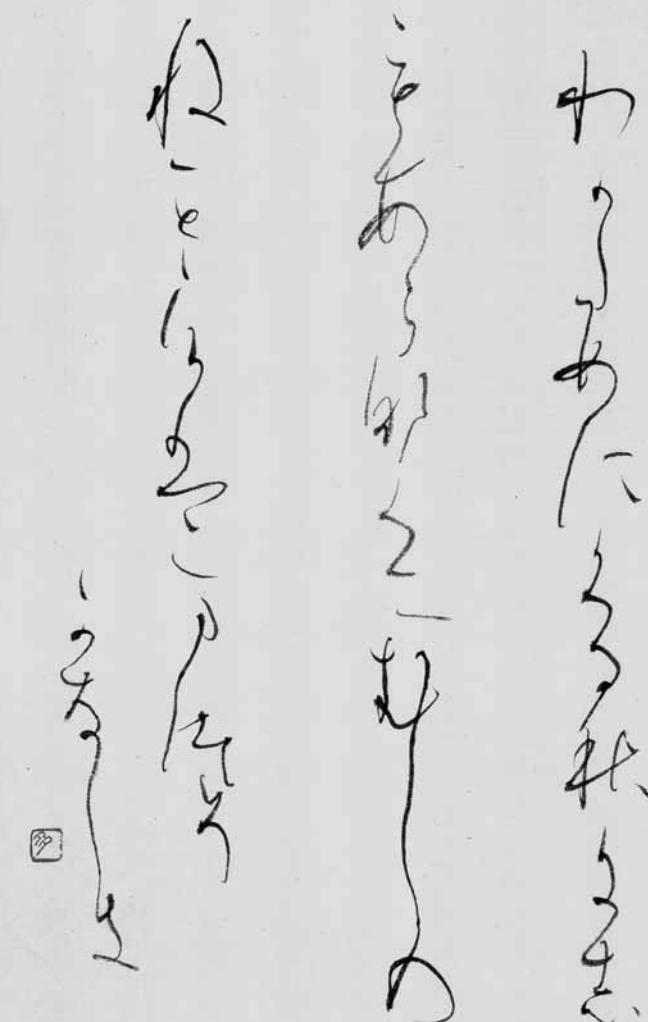
この要素を多少取り入れる必要があるかもしませんが、学ぶ段階では厳密な構築性と線の張りを目指すべきだと思います。6回シリーズの1回目は特定の古典を意識することなく、初唐風ということだけ決めて書いてみました。

習い方解説 (一)

大辻多希子

わがために来る秋にしもあらなくに
虫の音聞けばまづぞかなしき
(古今和歌集)

「まづ」は、世間の人々に先だっての意。



1回目は三行半の基本的な構成です。手本には単体と連綿の箇所があります。美しく流麗な作品を書くために連綿があります。かな作品は、2字、3字と連綿した時に行の動きが表現できます。連綿の動かし方が必要です。初心の人の中には文字の大小があり、運筆に遅速が生まれリズムとなります。創作するにはかなの原則を古筆から学ぶことが必要です。初心人は習得しましょう。手本に拘らず、種々な創作をして下さい。「かな基礎基本講座」でかなの原則が少しずつ掲載されます。参考にして下さい。

* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

よみ方

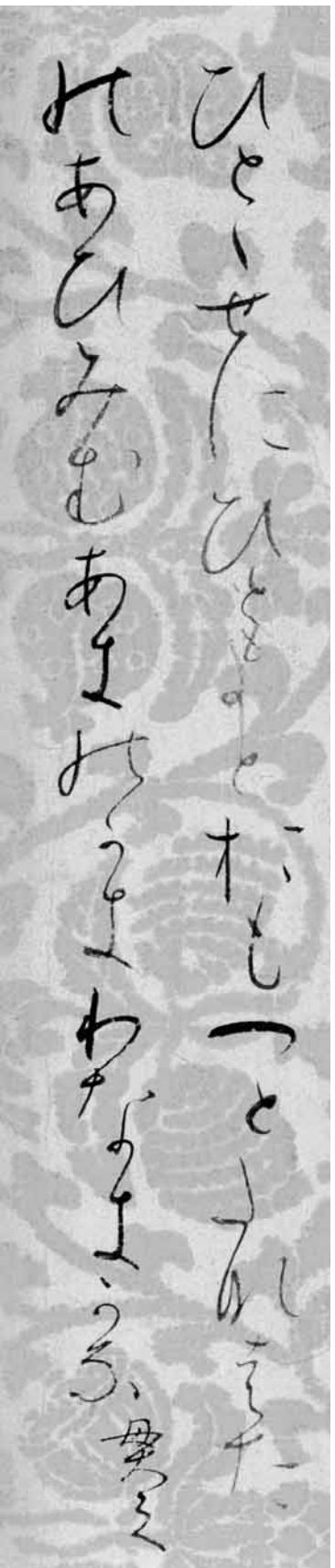
わが(可)た(多)めに來(久)る秋(あき)に(示)し(志)も(毛)あらな(那)く(久)に(二)
虫(むし)の音(ね)聞(き)け(介)ば(盤)ま(万)づ(徒)ぞ(曾)か(可)な(奈)しき(支)

創作

かな規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ （料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を臨書する。または部分（2字以上）の連綿または単体を含む）を臨書する。

枯葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 ひとゝせにひとよとお(於)もへどた(多)な(那)ば(者)た
の(能)あひみむあき(支)の(能)か(可)ぎ(支)り(利)なき(支)か(可)な(奈)貫之

習い方解説 (一)

佐藤 希雲

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

佐藤 希雲 選書

秋の月光
さやけみもみぢ葉の
落つる影
さへ見えわたるかな

（紀貫之「後撰和歌集」）

あゝの月光
さやけみもみぢ葉の
落つる影
さへ見えわたるかな

あゝの月光
さやけみもみぢ葉の
落つる影
さへ見えわたるかな

よみ方
秋(あき)の月光(あかり)さやけ(介)みもみ(二)ぢ葉(は)
落つる影(可遣)さ(沙)へ見えわた(多)るか(可)な(奈)貫

創作

秋の月が明るくはっきり見える
ので紅葉の落ち始めから落ち切る
まで、その姿がよく見えることだ
よ、の意。

「……み」は「くなので」と訳
します。月光に葉がきらきらと輝
く情景が目に浮かびます。

平凡な二行書きになりました。
二行目の上部の渴筆がポイントで
す。いろいろ工夫してみて下さい。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄書

習い方解説 (一)

千葉蒼玄



書体=自由

書と詩と酒は切っても切れない縁がある。その代表が杜甫の「飲中八仙歌」である。知章(賀知章)と聞けば草書の「孝經」が思い浮かぶだろう。

今回から6か月この飲中八仙歌を書いてみたい。まずは始めは鍾繇の作にした。時代が古くなれば楷書も隸書に近く横広の形となる。その後、造像の真四角を経て唐時代の縦長の楷書が完成する。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

大隅晃弘選書

習い方解説 (一)

大隅晃弘



書体=自由

五字句の一行書きです。建中告身帖の風を用いて書作しました。堂々とした向勢の構えと、藏鋒から筆の開閉を大胆に生かした運筆は、顔真卿の最大の魅力です。字粒が大き過ぎると、納まりが悪く落ち着きません。文字の懷を余白をとり、強い黒と明るい白のコントラストを狙いました。

人之生也直
(人の生くるるや直し)

身帖の風を用いて書作しました。堂々とした向勢の構えと、藏鋒から筆の開閉を大胆に生かした運筆は、顔真卿の最大の魅力です。字粒が大き過ぎると、納まりが悪く落ち着きません。文字の懷を余白をとり、強い黒と明るい白のコントラストを狙いました。

川島舟錦

「東洋の海上王」岩崎弥太郎は

三菱グループの礎を築きました。

安芸市にある生家の蔵や瓦

には、三菱の家紋があり、一般

家用されていました。舟錦書



〈解説〉

坂本龍馬や手島右卿など有名な「土佐の偉人」の中から、六名をご紹介します。練習しながら是非「高知への旅」を計画してみてください。

質問1

「ちっとも上手になりませんが、うまくなれる秘訣はありませんか?」

「最初の頃は、100枚書こうと決めて私は書いていました。たくさん書くことで解決するのではないか?」

「東洋の海上王」岩崎弥太郎は三菱グループの礎を築きました。安芸市にある生家の蔵や瓦には、三菱の家紋があり、一般公開されています。

- ◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(4.8×10cm)の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)
- 「注意!! 用紙サイズ(4.8×10cm)を守って下さい。

今和様殿錦秋紅葉の便り
今和様殿錦秋紅葉の便り

秋晴れの爽やかな日が続く好機となり

秋晴れの爽やかな日が続く好機となり

岩垣若翠

(楷書) 令和 様殿 錦秋 紅葉の便り
(楷書) 秋晴れの爽やかな日が続く好機となり

(行書) 令和 様殿 錦秋 紅葉の便り
(行書) 秋晴れの爽やかな日が続く好機となり

基本用語 「令和」平成から改元された年号。「様殿」個
人宛の敬称として使用する。様が一般的。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品
各部総評 NO.712

かな部 師範 梅津佳代子

書き始めから作者名、印の大きさや位置と、全てバランスよく快い。確かに用筆がゆとりを生む。

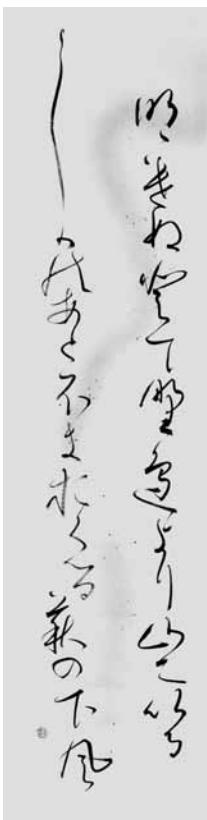
◎かな部總評 筆が小さいのか、線が細く、文字も小さい作品は不可。作者名を入れる時は、素材との調和を考えてほしい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 田中 岳舟

大胆な大小の変化で紙面に動きを与えている。やや運筆の速さがあるが、意欲を買う。

◎漢字条幅部總評 上級20字表現やや低調。特に行草体での工夫が不足。下級者を含め条幅三行表現は基礎力が試される。(大雪評)



前衛書部 特選 平田 悅子

磨墨の特性を生かし美しく立体感あり。用筆に力みなくみずみずしさが夢を膨らませてくれる作。

◎前衛書部總評 躍動感ある作品多数。より用具、用材の特長を知り印象的表現の工夫を。(京子評)



現代詩文書部 特選 西山 葵龍

大小様々な文字が、リズム・潤滑良く紙面全体に緻密に配置され、章法等、書の不易の部分に留意した作品作りを望む。(邑峰評)

見応えのある作となつた。

◎現代詩文書部總評 字形、線質。



漢字部 師範 尾形 紅霞
柔毛筆を用いた線の切れ味が抜群。北魏墓誌銘の風格が漂う。古典學習の成果を根底にした創作。

◎漢字部總評 上級は多種多様の作風が見られた。草書、篆書、隸書に誤字も見られた。字典を活用し、丁寧な校字を。(萬城評)



ペン字部 師範 竹清 汀琴

紙面構成と文字の大小の配置が絶妙。しなやかでリズミカルな行書体が際立ち格調高い。

◎ペン字部總評 今回の課題は上部併句「下部解説」の混合であつたが、構成余白や字の大小の工夫が今一步の作品多く残念。(季予評)

秋の天 魔女 東洋 56年前の
井上弘美句

魔女 る一頃の 東京五輪は、
秋の天 全日本女子バレー
が左側的強さ
で金メダル。
汀琴(ひづね)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 東福青篁 大辻多希子

小品の部



阿部雅悠書

135×35cm

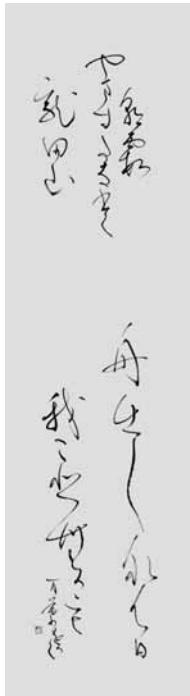
◆小作品として難しい構成であるが、軽快なテンポでよくまとめている。終筆や やもたついたか／(仙草評)

前衛書
(秀惠) 阿部雅悠 「輪廻」

阿部雅悠「輪廻」

◆上段を中字、下段を大字に流麗な作品。直筆を駆使し、温かみや切れのある爽やかな線条に好感。（多希子評）

評



（書泉会）
臨書
鍋島弘子
「朝霞」

殷仲文風流儒雅海內知名代異時移出為東陽太
守常急不樂顧庭槐而歎曰此樹婆娑生意盡矣
至如白鹿貞松青牛文梓根柢盤踞山崖表裏柱何
事而銷亡桐何萬而半死昔之三河徙殖九畹移根
開花建始之殿落實睢陽之園聲含嶺谷枯樹賦藝谷賦

森田藤谷臨

135×35cm

◆枯樹賦の特徴である抑揚による点画の変化と強弱が、細部まで表現されている。字間行間の白が美しい臨書作。（青篁評）

◆枯樹賦の特徴である抑揚による点画の変化と強弱が、細部まで表現されている。字間行間の白が美しい臨書作。（青篁評）

A horizontal scroll featuring a calligraphic piece in cursive script. The main text reads '眼を閉じて見ゆる」. To the left, there is a signature '塚田美翠書' and a small inscription '大正九年秋月'. The right side of the scroll shows the end of the text and some decorative elements.

塚田美翠書

35×135cm

創作の部(42点)
漢字 — 5 点
かな — 3 点
現代 — 18 点
篆刻 — 0 点
前衛 — 16 点
臨書の部(28点)
漢字 — 3 点
かな — 25 点

大作の部

藤村昌子臨

53×213cm

部分拡大



伊藤二千翔書

◆濃墨の雄大な
作品で筆力かこ
情熱を感じと
ことができる。
若さあふれる作
品。落款の処理
一考を要す。

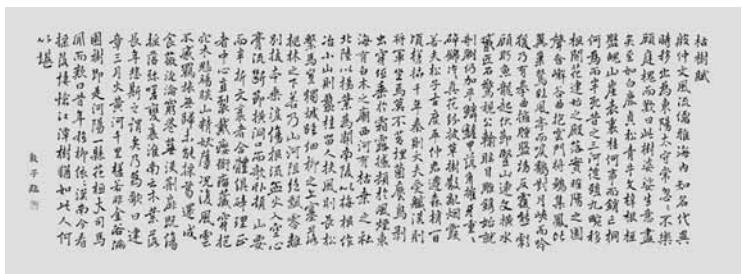
(仙草評)

前衛書
(白珠) 伊藤三千翔「動」

◆多字数を乱れなく、終始一貫した線条に感服。習熟した運筆が一層、伊勢集の華やかな美しさを表現。



臨書 (紅瑤) 相澤敦子 「枯樹賦」



相澤敦子臨

50×137cm

部分擴大
枯樹賦

◆原帖を細部まで
よく観察し、のび
やかな筆勢で自然
なりズムの全臨作
品。筆脈も貫通し、
全体のバランスも
すばらしい。

(青篁評)



皇中成山書

53×228cm

創作の部(31点)

漢字	— 2 点
かな	— 10 点
現代	— 6 点
前衛	— 13 点
臨書の部(21点)	
漢字	— 16 点
かな	— 5 点

大雲	英峰	春城	紅瑤	千葉
小倉	吉瀬	東原	木暮	竹浪
梅扇	彩雨	春城	鷺山	叙舟
	かな		美梢	金井みどり
			由華	千葉

◆大胆な筆致と運筆で大きく展開する。二本連筆使用か。筆の開閉と潤渴の変化が効果的な作。(大雲評)

◆大胆な筆致と運筆で大きく展開す

27

漢字研究部
(枯樹賦)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



田 中 岳 舟

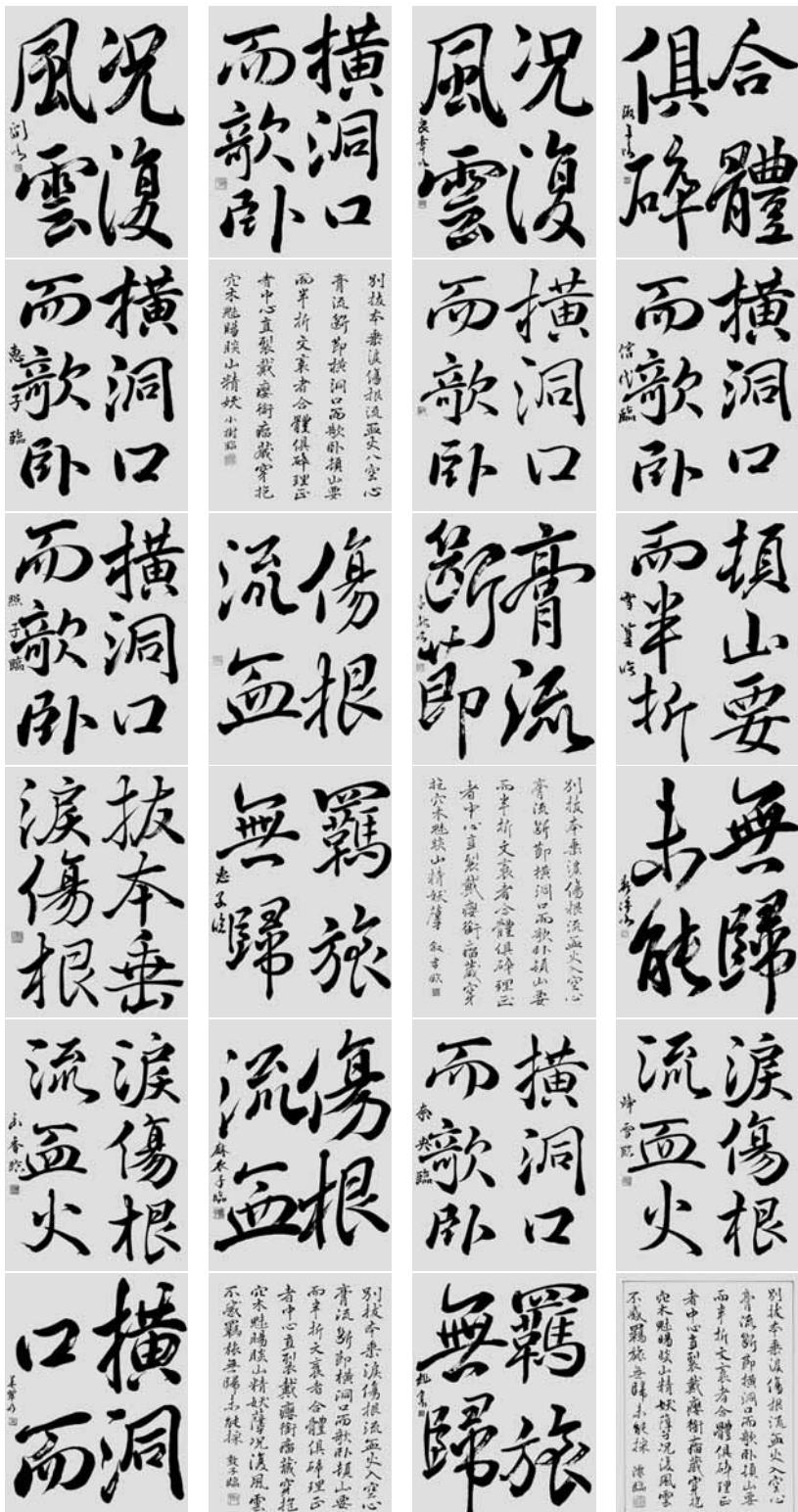
漢字研究部 特選 田 中 岳 舟

筆先のタッチが絶妙で、軽快かつ柔らかい運筆で書き進められている。さらに抑揚も程よく行われており、浮薄にも鈍重にも陥らずに張りの良い線質で貫通しているのは、高い技術の持ち主であることを証明している。

◎漢字研究部総評

「解説」で書かれていた俯仰法を実践するには、羊毛長鋒筆が適していると思います。

筆先の弾力が強い筆だと、俯仰法による毛先のねじれが早く戻ってしまって、「俯」と「仰」の区別の実感が薄れてしまうからです。字形の歪みもこの用筆法から生まれるので、たちの差はわずかで、皆立派。残念ながら選外となつた人たちはまず「解説」を熟読理解の上、臨書に取り組んでほしいと思います。



美幽澄照惠潤
翠香華子子

敦麻惠彩小有希
子子子子樹子

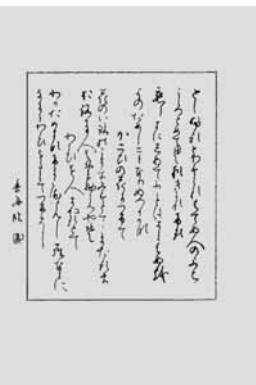
桃奈叙千美良
翠央考秋紗章

峰雪洋薑
澤雪洋薑

かな研究部
(石山切伊勢集)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



須田香舟

かな研究部 総評

今日は、華やかな切り落や凝った料紙のため、線と混同され婦・変・流の誤字が多くみられました。字母を調べ理解して取り組んでください。

墨量・筆圧の変化をよくとらえ、自然に流れる線質は美しく響いてきます。平安朝の優雅な書風が細やかに表現され、洗練された作品となりました。

和良正
美泉子

雅典清
泉子耀

葵寿嘉
郷子江

愛和春
石子華

八蘭有水高塙光
秀 鼎秋海崎和彩

硯

う白菊琇 水高上千誠大書颯上竜長大五紅清石清澄紅
水の露月韻 海崎泉葉和雲泉月雲松風月習月春瑠

特選

井市石飯飯安浅川作
上川泉島藤川みさ
芝チ洋洋律美な江

井口久
60書

宮飯野新加青根矢早松石驚七後根高原礪青田小松境宇須
澤高口井納木岸口部重崎山五藤岸橋澤貝木烟林丸野田川
三木と翠甘美和良正雅典清葵美嘉愛と香番
草幹美惠順松み登秋生子子子月子江朗景雨梢美泉子泉子耀
子子江石子華舟

紅瑠佳

佳

八中蓮上前た東上青桜上 天玉旭 澄 A八た光蒼大こだう蘭正中高誠澄
街川紅泉橋か向泉蓮草泉 篠川老 春 I 雲か彩陽阪だ雲る鼎華川井和春

藍澤作
50書

作

森村三本別浜島萩沼田中田高高鈴新清七猿櫻込小小黒木川岡大榎鶴岩
田上田多府野山原田代村里口原橋木行水條渡田山林柳村崎田島田澤瀬
内由ふ

白兆

書

龍佳蒼美和信永芝洋奎佳ゲ星代貞真睦瑞紀裕董龍美萩み竹順優麻竹和琴祥
博月舟雪枝子董香子心惠子子子薰心華子美右貞伸江子葉子子美鳳子舟園

掃大澄京文
雪阪春橋筆人

入

明昌椿竹白黎高長大澄前は高書
漢苑翠美露明崎月雲春橋せ崎泉

かな研究部 成績表

有天阿東青
澤羽部木

選

吉吉安八松松増堀深春長二永中戸樋鶴田武竹高庄佐佐櫻齋斎小小高吉北菊菅川河加葛小岡大遠梅井石熱青
田田木村田浦田切澤山谷通井江部泉田中山内草司藤々田藤藤峰原口武瀬村地野元合藤 野部木藤津ノ崎海木
木千眞橋 美木 美

溪惠冬花知
翠子華子子

書

鶴琴砂綾七佳幸佳勝久麗伯よ藤雪雅耶花智代咏陽淳智杏 加智音彩欣泰静菜和翠恵朱藤歩瑛代春正桃玉
子綾子舟子香江子雲月美子子風董裕衣源子子舟邑功子子城雨子峰代仙敬陽美星瓊佳棄子翠枝

や高桜青澄甲玉白土正竹蘭八八春高澄英芳や樹た正文干附大伏富大華青黎明大澄玄梅白こ掃 A澄久誠章華八塚こ清洞書
ま真草峰春和川露縁氣原鼎生街汀崎春峰蘭原まか華泉筆葉中阪貴阪祥峰明漢阪春弯桃驚だ雪 I春賀和泉祥街 だ月書

田武高高高関春鈴杉杉代島篠佐酒齋齊斎紺小小吳熊久國岸岸金金加鹿小小萩小尾大江梅馬生植岩入今板石五飯安
玉井橋橋美 美

由

藤根原木浦田田タカ井藤藤野林沼 谷保峰本 谷岡藤島田澤川形西口原野方田渕谷村垣渡田十島嶺ト
木惠木 木

哲一美千幸松代慶節祥幸葉貴美和知翠早江つ遊晃美豊紫智翠萩民美萩雅裕愛和良輝紅一茉虹桂美紅祥悠貴翠悦佳ミ風
子江好代苑美子子子風子子香苗彩え山代結美蘭美翠茜子和美芳子実子風峯霞美悠祥泉子雨苑花泉鳳徑子栄子

遷芳こ京も竹蓮東華黎や華玉蘭桜あ生菊大こ声桜澄生誠有澄大土長椿蘭正上麗姫幸白姬北遊洞一大掃小大春堺高掃蕙千
外蘭だ橋く美紅伯仙明ま仙川鼎草か大月阪だ香草春大和秋春阪気月翠鼎華泉澤路局珠路原雲書草雲雪映阪汀 真雪石葉

83渡吉吉横遊山山山山谷森守本宮宮宮松増牧福福深廣平平林林演長乘野西仁長中中中中中豊渡利鶴津田種
名邊野田種山佐本本中口口知友吉下崎坂川内本田野原田堀地山山山田谷船村山川木井村林嶋鳴原子守端田村谷
氏紗裕志 百

由

信桜佑藤蘭紅真美和律雪美直津明樂英萩洋成合華清里流清美優だつ雅美陽 抱幸葵美光久寛一清紀 扇紀佳亞李森
略溪佳子玉舟雅紀楓子翠子子香翠明苑子子秀次萌源洗幸子子子一翠花城龍子堂仙子琴香子勝水子理希花石城

●篆刻

【十一月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①篆刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印鑑は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、篆刻とも応募は一人一点。

10月号 篆刻課題



○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和二年九月二十五日印 刷 行
令和二年十月一日発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術

第七二四号

712号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

篆刻

<特選>



「張仔信印」

創作



「吟月」

(篆刻)		佳作 (50音順)		特選 新村翠芳		形、意共にもう一步の感あるが真摯に取り組んだ作品です。	
秀作 (50音順)	特選	八街	洞書	洞書	新村	洞書	安藤
大雲	小沢	華仙	大綱	伊藤	翠芳	伊藤	楊風
附中	織田真奈美	久保村南城	遊雲	豪峰	研治	敏男	
硯水	やまと	大雲	書游	片岡	咲艸	秀逸。	
秀作 (50音順)	入選	柿沼	蘇我	伊藤	育嗣		
大沼	佐藤	中川	大綱	彩香	申		
天峰裕峰	橋本	研治	遊雲	育嗣	能喜		
(選外2名氏名略)	関口	大雲	書游	豪峰	義則		
芳蘭	青霞	佐藤	佐々木	洋治	花		
石心	炎	佐藤	金谷	惟一	雅悠		
秀作 (50音順)	入選	北生	赤屋	逢沢	祥		
大沼	野内	大空	逢沢	治	花		
天峰裕峰	光峰	慈空	相川	唯一	惟		
(選外1名氏名略)	声富見佳耀	遊唯紅	成田	治舟	治舟		
炎弦小弘	映舟雲一	北生	中坂	伊阿	伊阿		
香	野	大空	昌富	藤部	藤部		
宮内木	佐藤	慈空	成田	伊阿	伊阿		
成子	佐々木	佐々木	昌富	藤部	藤部		
(選外1名氏名略)	青霞	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木		
紫蘭	炎	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木		
華	成子	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木		

(創作)		佳作 (50音順)		特選 塚田美翠		幾分構成が今一息だが運刀に一日の長を感じられる。	
秀作 (50音順)	特選	四枝	塚田	塚田	塚田	塚田	塚田
芳蘭	大沼	塚田	美翠	美翠	美翠	美翠	美翠
石心	天峰裕峰	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
秀作 (50音順)	入選	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
大沼	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
天峰裕峰	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
(選外1名氏名略)	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
芳蘭	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
石心	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
秀作 (50音順)	佳作 (50音順)	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
大沼	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
天峰裕峰	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
(選外1名氏名略)	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤

定価 一部 七五〇円

発行人 辻元洋一(大雲)

編集兼

印 刷

デーク処理

株式会社 リンクス

印 刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田一丁目六七

電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957 携帯 010-4335-0558

ホームページ http://www.linos.co.jp/shogei/

送 料

1か月の購読部数が1部～9部までの1回の郵送料

79円 95円 103円 119円 135円 151円 167円 183円 199円

10部以上は

送料免除

お問い合わせ、ご連絡は、月曜日～金曜日九時～十七時の間に

お願いします。(土・日・祝日は休み)

電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一丁目六七
東神田プラザビル三階

101-0031

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は